

J I C Aカンボジア事務所

鵜飼 彦行様 挨拶文

カンボジア鉱工業・エネルギー省 副大臣 Ith Praing 閣下

カンボジア技術者協会 Meas Sokhom 教授

在カンボジア日本国大使館 地神 一美参事官

財団法人 海外技術者研修協会 ASEAN・南アジア統括所長 吉原 秀男様

ご来賓の皆様

社団法人日本技術士会が実施する第3次グリーンテクノロジー研修の開講式に、国際協力機構カンボジア事務所を代表して、皆様にご挨拶の機会を得ることは、たいへん光栄なことです。

私は、国際協力の仕事に従事してから、日本には技術士法があることを知りました。J I C Aの職員の中にも、数は多くありませんが技術士の資格を保有している者もいます。組織的にも個人の専門性を示す指標として人事評価項目の一つとしていますし、資格の保有により給与が増額されることもあります。

個人的には、名刺に技術士の資格保有を記載できることは、修士号取得を意味するM AまたはM S cを記載する以上にプレステージが高いものであると感じています。

今回、カンボジアにも技術者協会が存在することを初めて知り、うれしく思いました。社団法人日本技術士会の50年以上にわたる歴史に習い、この国の技術者の保護と育成に努めていただきたいと考えます。

他方、カンボジアでは個人が保有する高い技術を産業に活用し、国の経済発展に

貢献するシステムが未だ整備されていません。このためには、優秀な技術者の育成が第一に必要ですが、技術者の能力に応じた報酬と社会的地位が各人に与えられる環境を整備することも重要です。

過去二回と今回の研修で一貫して採用されている研修テーマ、「農産物（食品）加工技術」「環境に配慮したエネルギー開発技術」「情報応用技術」は、カンボジアの現状を考えると、極めて適切な選択であることが分かります。また同時に、これら3分野は、世界の中でも日本に比較優位がある技術であり、本研修の出席者は、最先端の講義を聴講する機会を得ているといえます。

現在カンボジアが必要としている技術の多くは、これら最先端のものではないと思いますが、ここに出席しているカンボジア技術者協会のメンバーに、知的インパクトを与え、この国に真に必要な技術に翻訳されていくことを期待します。

技術者の育成は、JICAが過去30年間にわたり100カ国以上で最大の協力を実施してきた分野です。それぞれの国で様々な教訓を学ぶことができましたが、その国に適した技術の開発と、その技術を普及発展させる情熱を持ったカウンターパートを育成することが、成功への近道であると考えられています。

日本政府経済産業省の支援を得た本研修が、多くのカンボジア人技術者の知識向上に資することを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。